

# 保証書

持込修理 無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
  - (イ) 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
  - (ロ) お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
  - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛けなどによる故障及び損傷
- (二) 消耗または摩耗した部品、付属品の交換
- (ホ) 本書のご提示がない場合
  - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合  
(但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
  - (ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
  - (チ) 一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	レコードプレーヤーシステム			★お買い上げ日： 年 月 日
型番	RDP-B1000N	品番	07-8219	保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)
お客様	ふりがな ★お名前 様			
	★ご住所 〒 一  電話 ( )			
修理メモ				
販売店	★住所 店名 電話  印			

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。

※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。



株式会社 オーム電機  
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8  
<http://www.ohm-electric.co.jp>

製品に関するお問い合わせは お客様相談室へ

●通話料無料 ●携帯・IP・公衆電話からは  
0120-963-006 048-992-2735

電話 受付 平日 9:00~17:00  
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ

電話 受付 048-992-3970 平日 9:00~17:00  
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

07-8219A

AudioComm®

# 取扱説明書 保証書付

## レコードプレーヤーシステム

型番:RDP-B1000N 品番:07-8219



このたびは、AudioComm® レコードプレーヤーシステムを  
お買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。  
本機の性能を充分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、  
ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。なお、お読みになられた後は、  
ご使用時にいつでも見られますように大切に保管してください。

## 目次

免責事項	1	外付けスピーカー(付属)以外の外部機器へ
著作権について	1	音声を出力するときは
安全上のご注意	1～3	レコード針の交換方法
使い始める前に	3	故障かなと思ったら
電源について	4	主な仕様
各部の名称	4	お手入れのしかた
レコードを聴く	5～6	保証書とアフターサービスについて
		保証書
		裏表紙

## 免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間及び経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品よりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

## 著作権について

放送やCD、MD、レコードなどの他の録音物の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

## 安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取扱を誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

### 絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

### 絵表示の使用例



△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。  
(左図の場合は感電注意が描かれています。)



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。  
(左図の場合は分解禁止が描かれています。)



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。  
(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜くが描かれています。)

## 警告

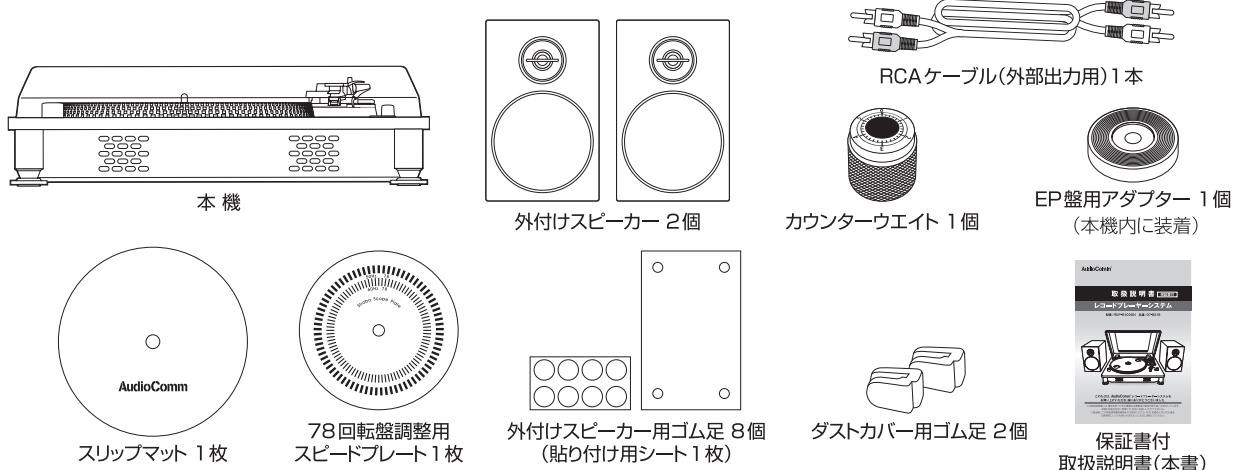
	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感じたら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。		電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止する ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●修理をご依頼ください。
	万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店にご連絡ください。		海外では使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災の原因となります。 ●この機器を使えるのは日本国内のみです。
	電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続し、異常が発生した場合は速やかに電源プラグをコンセントから抜く ●手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。 ●本機の電源を切つただけでは、完全に電力を遮断できません。		電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●コードが破損して火災・感電の原因となります。
	雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない ●感電のおそれがあります。		表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない ●火災・感電の原因となります。
	本機を分解、修理、改造しない ●火災・感電の原因となります。		本機や電源コードの上に重いものをのせたり、コードの上に本機をのせない ●コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
	本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使わない ●感電や故障の原因となります。		電源コードを敷物などで覆わない ●気づかず重いものをのせてしまい、火災・感電の原因となります。

## 注意

	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電の原因となることがあります。		狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、本機に新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどをかけて通気口をふさがない ●火災の原因となります。
	音量を上げすぎない ●周囲の迷惑になったり、聴覚に悪い影響を及ぼすおそれがあります。		本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるようなものを置かない ●火災・感電の原因となります。
	旅行などで長時間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く ●火災の原因となることがあります。		本機の上に花瓶などの水が入ったものを置かない ●火災・感電の原因となります。
	移動させるときやお手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く ●感電の原因となることがあります。		調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。
	電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない ●電磁波により互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。		ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない、強い衝撃を与えない ●落ちたり、倒れたりしてけがをしたり、破損や故障の原因となります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない ●コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。		電源コードを熱器具に近づけない ●コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	ピッヂストロボの光源を直接覗き込まない ●視覚に悪い影響を及ぼすおそれがあります。		ほこりの多い場所に置かない ●火災・感電の原因となることがあります。
			窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない ●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。
			電源プラグとコンセントの接続部を定期的に掃除する ●電源プラグとコンセントの間にほこりがたまるとな自然発火(トラッキング現象)を起こすことがあります。年に数回、定期的に接続部のほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
			●使用環境にもよりますが、2年に1回程度、機器内部の掃除をお勧めします。最寄りの販売店にご相談ください。

## 使い始める前に

本製品には、以下のものが含まれています。  
箱を開けたら、まず最初に付属品を含めた内容物をお確かめください。



### 重要 ご注意 使い始める前の準備

●本機は、製品保護のため、ダストカバーやターンテーブル、トーンアーム、EP盤用アダプターなどがテープやワイヤー入り結束ひもで固定されています。ご使用の前にこれらを必ず取り外してください。付けたまま使うと故障や破損の原因となります。

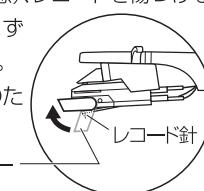
●トーンアーム先端のレコード針はコの字型の透明プラスチックカバーで保護されています。レコード針が保護された状態のまま使うと(カバーが下向きの状態)、レコードを傷つける原因となりますので、ご使用時は必ずカバーを手前に引き上げてください。  
また、しばらく使わないときは保護のためカバーを下げてください。

透明プラスチックカバー

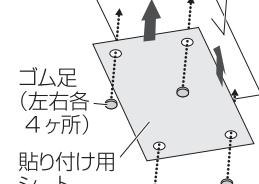
●レコードを保護するため、ご使用時は必ず付属のスリップマットをターンテーブルに装着してください。

●本機の設置場所を保護するため、外付けスピーカーの底面に外付けスピーカー用ゴム足を貼り付けてください(貼り付け用シートを底面に当て、ガイド穴を目印にしながら貼り付けてください)。

●ダストカバーの開閉による衝撃や傷から本機を守るため、ダストカバーの図の部分に、ダストカバー用ゴム足を取り付けてください(左右各1カ所:はめ込み式)。



外付けスピーカー底面



●本製品にはカウンターウエイトが付属しています。以下の方法で取り付けてからご使用ください。

① カウンターウエイトの目盛りが見える方を手前にして、トーンアームの後ろから差し込みます。カチッと音が3回するまでしっかりと差し込んでください(図1)。

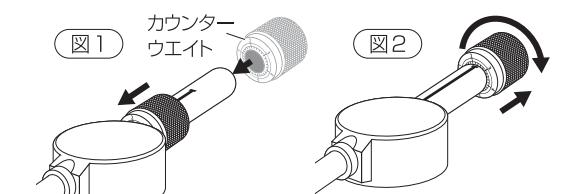
② カウンターウエイトを少し引き抜いた後、トーンアームに記された白い線の端が見えるまで時計回りに回転させます(図2)。

③ カウンターウエイトの金属部をしっかりと押さえて、目盛り部分(黒い部分)のみを回転させ、「1」の目盛りをトーンアーム状の白い線に合わせます(図3)。

④ カウンターウエイト全体を反時計回りに回転させ、レコード針に適した針圧に合わせてください(図4)。

●本機に付属のレコード針(針圧: 4~6g)の場合は、目盛りの4—5—0の任意のところを白い線に合わせます(反時計回りに回転させた後の「0」は針圧6gを示します)。

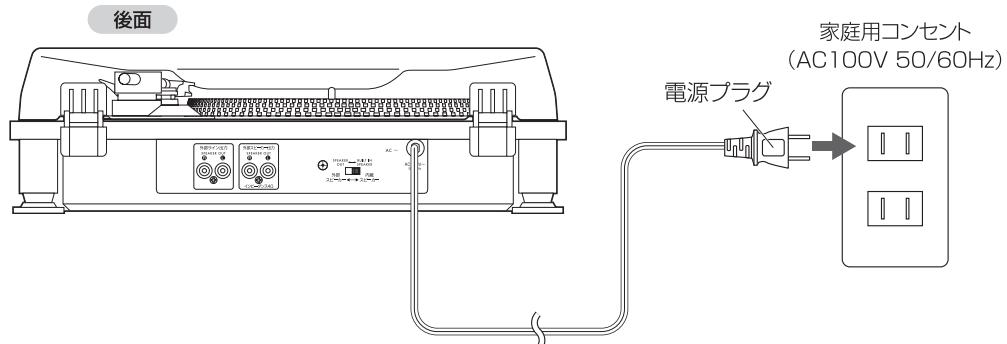
●別途、種類の異なるレコード針を装着の際は、レコード針の仕様に合わせた針圧数値に調整してください。



カウンターウエイト  
図1  
図2  
図3  
図4  
この部分をしっかりと押さえてください。  
目盛り部分のみを回転させ、「1」の目盛りを白い線に合わせます。  
反時計回りに回転させ、レコード針の針圧に応じた数字に合わせます。

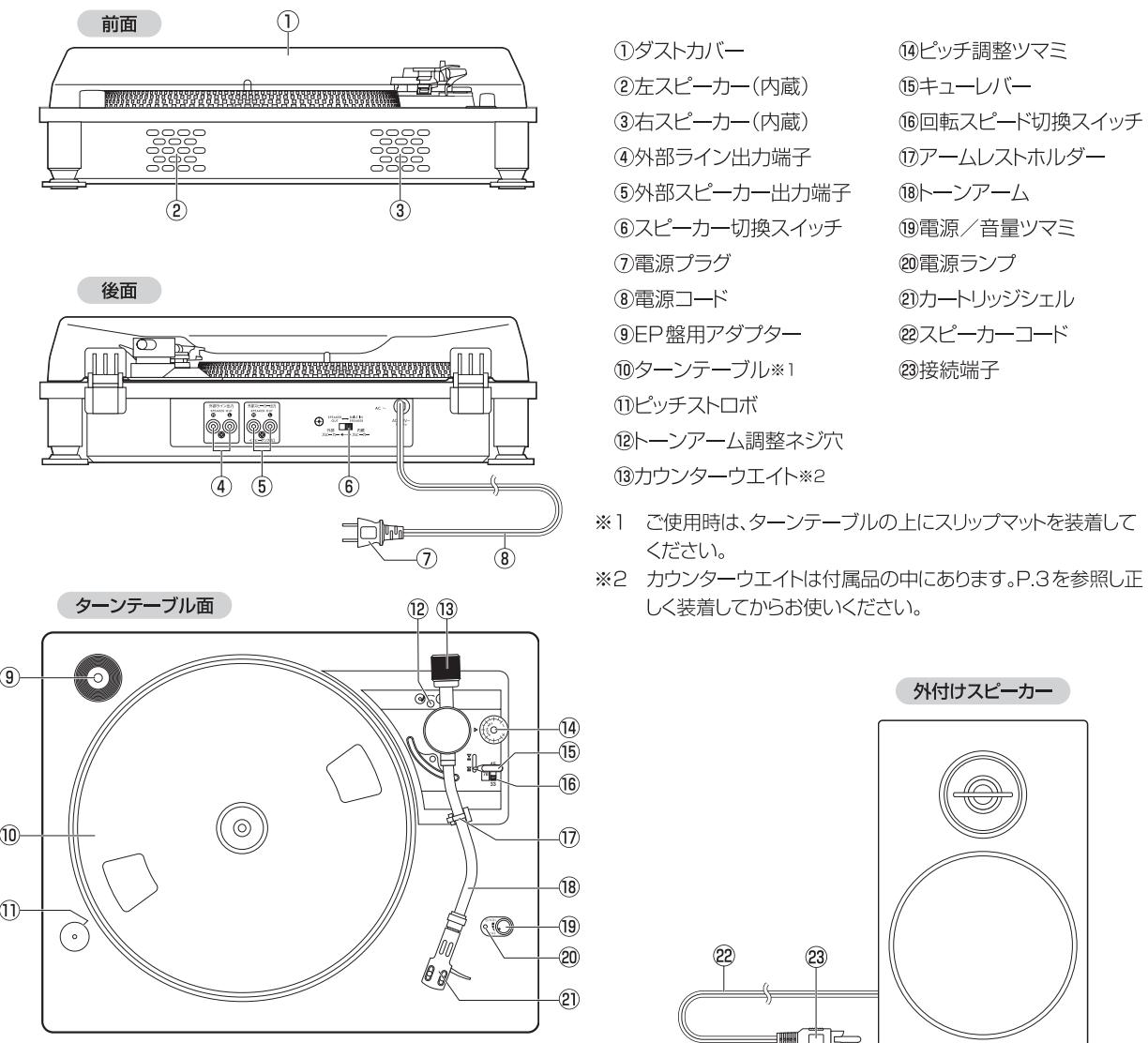
## 電源について

電源が切れていることを確認し、電源プラグを家庭用コンセントに接続します。



**ご注意** ●電源プラグはコンセントにしっかりと差し込んでください。不完全な状態だと、雑音発生の原因となります。

## 各部の名称



\*1 ご使用時は、ターンテーブルの上にスリップマットを装着してください。

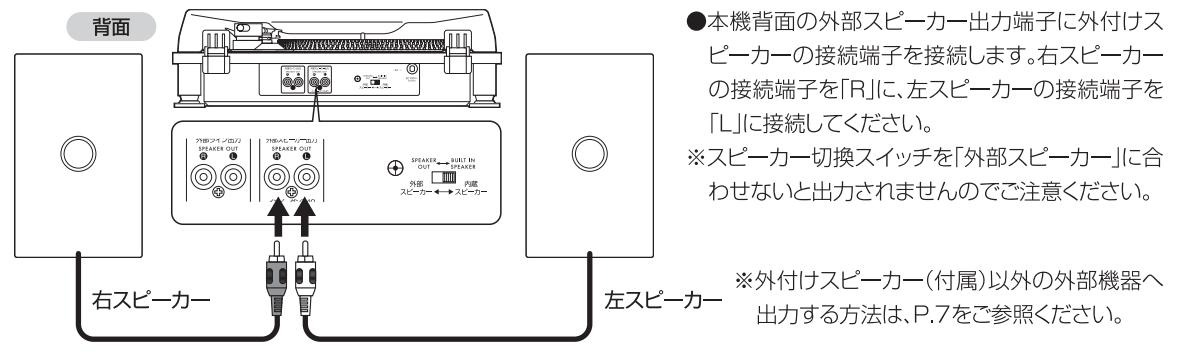
\*2 カウンターウエイトは付属品の中に入ります。P.3を参照し正しく装着してからお使いください。

# レコードを聴く

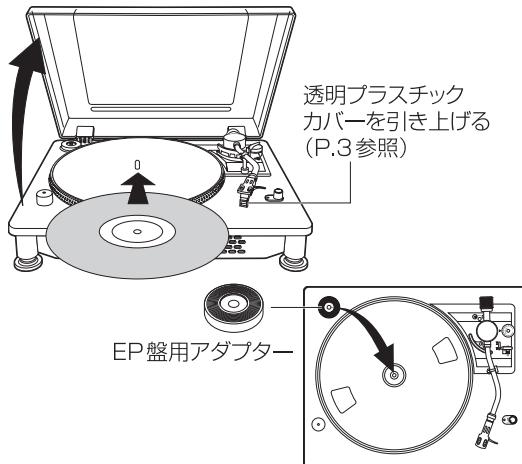
事前にP.3を参照し、使い始める前の準備をした上で操作してください。また、本機のオートリターン機能の特性上、初回使用時のみ、トーンアームをターンテーブル側に動かすと自動的にアームレストに戻りますが故障ではありません。その後、正常に動作するようになります。

## スピーカーの切換について

本機には内蔵スピーカーで音声を出力する方法と、付属の外付けスピーカーから出力する方法があります。出力方法の切換は背面にあるスピーカー切換スイッチで行ってください。なお、付属の外付けスピーカーを接続する場合は、電源が切れている状態で、下図を参考し正しく接続してからお使いください。

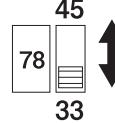


- 1** ダストカバーを開けて、レコードをセットします。  
EP盤の場合は、EP盤用アダプターをターンテーブルの軸部に装着し、その上からセットしてください。また、レコード針の透明プラスチックカバーを必ず引き上げてください。

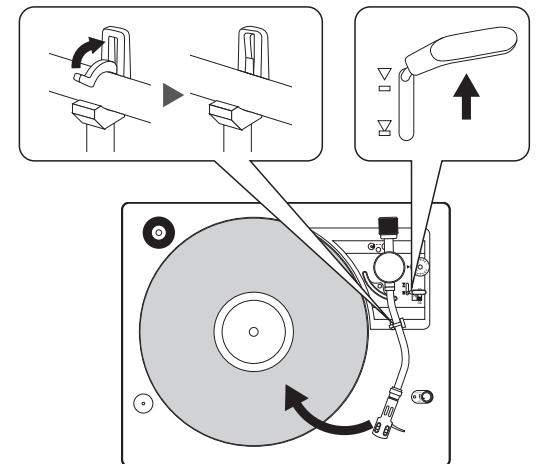


- 2** レコード盤の種類に合わせて回転スピード切換スイッチを切り換えます。  
多くの場合、LP盤は33 $\frac{1}{3}$ 回転(スイッチ表示は33回転)、EP盤は45回転、SP盤は78回転です。

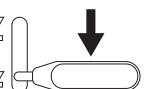
- 3** 電源／音量ツマミを時計回りに回して電源を入れます。  
カチッと音がして電源が入り、電源ランプが点灯します。最初から音量を上げすぎないでください。



- 4** アームレストホルダーのストッパーを外し、キューレバーを上に上げます。その後、トーンアームを演奏したいところの上に移動させます。  
トーンアームをレコード盤に近づけるとターンテーブルが回転し始めます。



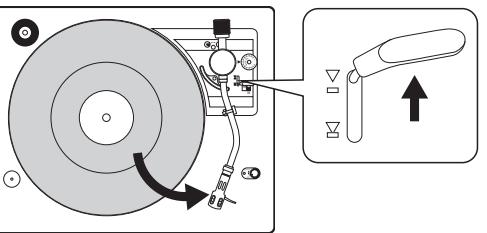
- 5** キューレバーを下に下げます。  
レコード針がゆっくりと下りて演奏が始まります。



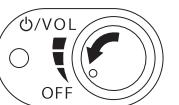
- 6** 電源／音量ツマミを回して音量を調節します。  
音量の上げすぎにご注意ください。  
周囲の迷惑になるだけでなく聴覚に悪い影響を与えるおそれがあります。



- 7** 演奏が最後まで終わると、トーンアームが自動でアームレストホルダーまで戻ります(オートリターン)。演奏を途中で中止したいときは、キューレバーを上に上げます。その後、トーンアームをアームレストホルダーに戻してください。



- 8** 終了するときはキューレバーを下げた後、トーンアームを固定し、電源／音量ツマミを反時計回りに回して電源を切れます。  
カチッと音がするまで確実に回してください。電源が切れると電源ランプが消灯します。



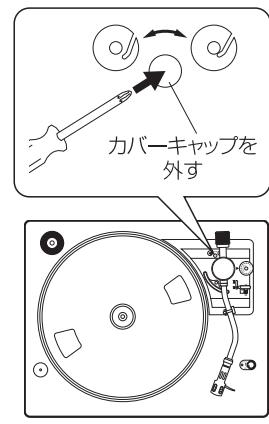
## ご注意

- トーンアームを操作するときは、レコード盤を傷つけないようご注意ください。
- 使わないときはレコード盤を本機にセットしたままにせず、ジャケットに入れて保管してください。また、アームレストホルダーのストッパーもしっかりと固定し、ほこりなどから本機を保護するため、ダストカバーを閉じてください。

## ヒント トーンアームの可動範囲調整について

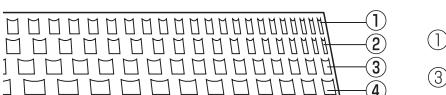
最後まで演奏されずに途中でトーンアームが戻ってしまう場合や、演奏完了後もトーンアームが戻らない場合は、トーンアーム調整ネジのカバーキャップを取り外し、①ドライバーを差し込んで奥にあるネジを左右に回して調節してください(必ず電源を切り、レコード盤をターンテーブルから取り外してから行ってください)。

※レコード盤の演奏時間は個々に異なるため、必ずしもすべてのレコード盤での適正な動作を保証するものではありません。よくお聴きのレコード盤で状況を見ながら何度も繰り返して調整することをおすすめします。

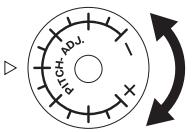


## ヒント ピッチコントロール(演奏速度の微調整)について 【ご注意】ピッチストロボの光源を直接覗き込まないでください。

ピッチストロボの光を受けて浮かび上がる、ターンテーブル側面の残像の動きにより、適正回転かどうかを確認できます。下記の例を参考にレコード盤の種類や使用環境に応じて操作してください。



- ①33 $\frac{1}{3}$ 回転(60Hz)時 ②33 $\frac{1}{3}$ 回転(50Hz)時  
③45回転(60Hz)時 ④45回転(50Hz)時



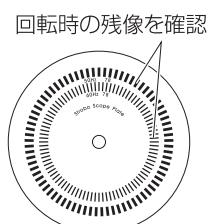
ターンテーブルを回転させてください。その後、例えば33 $\frac{1}{3}$ 回転のレコードを電源周波数60Hzの環境下で演奏している場合は、①の残像の動きを確認してください。

- 残像が右に流れている場合：回転が適正速度よりも遅くなっています。流れる動きが止まるまで、ピッチ調整ツマミをプラス(+)側に回してください。演奏速度が速くなります。
- 残像が左に流れている場合：回転が適正速度よりも速くなっています。流れる動きが止まるまで、ピッチ調整ツマミをマイナス(-)側に回してください。演奏速度が遅くなります。

## ヒント SP盤(78回転)のピッチコントロールについて

回転スピード切換スイッチを「78」に合わせた後、ターンテーブルに78回転盤調整用スピードプレートを装着して回転させます。スピードプレートに印された線の残像の動きを見ながら、ピッチ調整ツマミで調節してください。

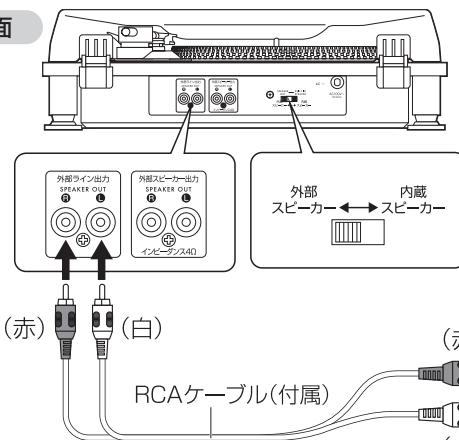
- 残像が時計回りに流れている場合：回転が適正速度よりも速くなっています。流れる動きが止まるまで、ピッチ調整ツマミをマイナス(-)側に回してください。演奏速度が速くなります。
- 残像が反時計に流れている場合：回転が適正速度よりも遅くなっています。流れる動きが止まるまで、ピッチ調整ツマミをプラス(+)側に回してください。演奏速度が遅くなります。



## 外付けスピーカー(付属)以外の外部機器へ音声を出力するときは

ステレオコンポやスピーカーシステムなどに本機の音声を出力することができます。

背面



接続は本機及び外部機器の電源が切れた状態で行ってください。

- 本機の外部ライン出力端子と外部機器のAUX IN(外部音声入力)端子を、RCAケーブル(付属)を使って接続します。プラグの色(赤／白)と同じ色の端子にそれぞれ接続してください。
- スピーカー切換スイッチを「外部スピーカー」に合わせてください。

**ご注意** ステレオコンポなどに本機を接続する場合、PHONO端子ではなく、必ずAUX IN(外部音声入力)端子に接続してください。PHONO端子に接続すると機器が故障するおそれがあります。

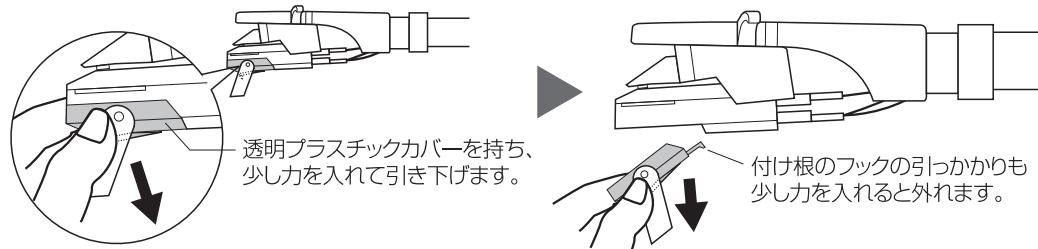
## レコード針の交換方法

レコード針は50時間ほど使用するとすり減って音質が悪くなり、レコード盤を傷めます。定期的に弊社指定の専用交換針にお取り換えください。

本製品は右記交換針の針部のみを使用して交換します。詳しくはお問い合わせください。

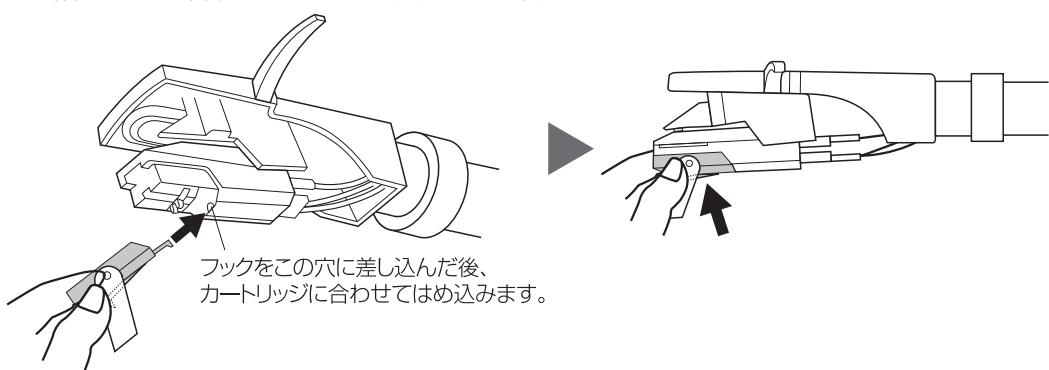
専用交換針(3本入)  
弊社商品番号 07-8266

1 透明プラスチックカバーを持ち、少し力を入れて引き下げて、針部(赤い部分)を本体から外します。



2 ①と同様の手順で、新しいカートリッジから針部(赤い部分)のみを取り外します。

3 新しい針部のフックを本機のカートリッジの穴に差し込んだ後、元どおりにはめ込みます。



## 故障かなと思ったら

症状	チェック項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源プラグは正しくコンセントに差し込まれていますか。</li> </ul>
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●音量が最小になっていませんか。</li> <li>●スピーカー切換スイッチは正しく選択されていますか(内蔵スピーカーの場合は「内蔵スピーカー」に、付属の外付けスピーカーの場合は「外部スピーカー」に正しく合わせてください)。</li> <li>●(外付けスピーカー使用時)接続端子は外部スピーカー出力端子に正しく接続されていますか。外部ライン出力端子に接続していませんか。</li> </ul>
トーンアームが動かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アームレストホルダーのストッパーがロックされていませんか。</li> </ul>
レコード針がレコード盤から浮く	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カウンターウエイトの設定は正しいですか。レコード針の規格よりも小さい数字に設定されている場合、レコード針が浮いて演奏が断片的になります。P.3を参照して調節してください。</li> </ul>
レコードの音がおかしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●回転スピード切換スイッチがレコードの回転数に合わせた位置になっていますか。</li> <li>●ピッチ調整ツマミの設定は合っていますか。</li> <li>●曲がっていたり、そっているレコード盤を使っていますか。</li> </ul>
音が飛び	<ul style="list-style-type: none"> <li>●振動の多い場所で使っていませんか。床の振動などが本機に伝わっていますか。</li> <li>●レコード盤に傷がついていませんか。</li> <li>●本機を水平な場所に置いていますか。傾いていると針が飛びやすくなり、音飛びの原因になります。</li> <li>●レコード盤にそりはありませんか。</li> <li>●カウンターウエイトの設定は正しいですか。レコード針の規格よりも小さい数字に設定されている場合、レコード針が浮いて演奏が断片的になります。P.3を参照して調節してください。</li> </ul>
雑音が入る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レコードの針が摩耗していませんか。新しい針ノブ(レコード針カートリッジ)と交換してください。</li> <li>●針先にほこりがたまっていますか。</li> <li>●レコード盤に静電気が溜まっていますか(「お手入れのしかた」を参照してレコード盤をクリーニングしてください)。</li> </ul>
演奏途中でトーンアームが戻ってしまう	<ul style="list-style-type: none"> <li>●P.6を参照してトーンアームの可動範囲を調整してください。</li> </ul> <p>※一般的なレコード盤よりも極端に演奏時間が長かったり、短かったりする場合、可動範囲を調整しても適正に動作しないことがあります。</p>
演奏が終わってもトーンアームが戻らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本機の置きかたや部屋の状態により発生する場合があります。置きかたや音量を調整してください。</li> </ul>
「ワーン」という音が出る(ハウリング現象)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本機の置きかたや部屋の状態により発生する場合があります。置きかたや音量を調整してください。</li> </ul>
外部機器への出力で音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●RCAコードが、本機の外部ライン出力端子と外部機器側のAUX IN(外部音声入力)端子にしっかりと接続されていますか。※外部機器のPHONO端子には接続しないでください。</li> <li>●スピーカー切換スイッチは「外部スピーカー」に合わせられていますか。</li> <li>●本機または外部機器の音量設定は正しいですか(いずれかが音量ゼロになっていますか)。</li> </ul>

## 主な仕様

### ●本体

電源	AC100V～ 50／60Hz
実用最大出力	外付けスピーカー：5W+5W(r.m.s) 内蔵スピーカー：1.5W+1.5W(r.m.s)
消費電力	27W
形式	マニュアル機構
回転速度	33⅓回転、45回転、78回転
カートリッジ	セラミックタイプ
駆動方式	ベルトドライブ
周波数特性	100Hz～10kHz
外形寸法	幅440×高さ130×奥行350mm(突起物含まず)
質量	約4.3kg

### ●内蔵スピーカー

形式	口径50.5mm フルレンジスピーカー(3W 4Ω)×2
周波数特性	160Hz～20kHz

### ●外付けスピーカー

※外付けスピーカーは本機専用です。

形式	口径102mm フルレンジスピーカー(8W 4Ω)×2
周波数特性	100Hz～14kHz
外形寸法	幅130×高さ211×奥行203mm
質量	約2.4kg

### ●付属品

- ・外付けスピーカー 2個
- ・RCAケーブル(外部出力用) 1本
- ・スリップマット 1枚
- ・カウンターウエイト 1個
- ・EP盤用アダプター 1個(本機内に装着)
- ・78回転盤調整用スピードプレート 1枚
- ・ダストカバー用ゴム足 2個
- ・外付けスピーカー用ゴム足 8個(貼り付け用シート 1枚)
- ・保証書付取扱説明書

※仕様及び外観は予告なく変更することがあります。

※この取扱説明書で使用しているイラストは、実際の製品と一部異なる場合があります。

## 保証書とアフターサービスについて

### 保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

### アフターサービスについて

#### ●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

#### ●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

#### ●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

## お手入れのしかた

### キャビネットのお手入れ

キャビネットや操作部が汚れたら、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布に吹き付けて拭き、続いてから拭きをしてください。



シンナー、ベンジン、  
アルコールなどは  
使用しない

### レコード盤のお手入れ

レコード盤にほこりやゴミが付着すると、音飛びや雑音の原因となりますので、市販のクリーニングキットなどでクリーニングすることをおすすめします。  
クリーニングする際は、レコード盤の溝に沿って弧を描くように行ってください。

